



にん ち しょう

「認知症」

どんなタイプがあるの？

アルツハイマー型認知症、
血管性認知症、レビー小体型認知症、
前頭側頭型認知症が4大疾患と
言われています。



アルツハイマー^{がたにんちしょう}一型認知症

日本で一番多い認知症。もの忘れで始まり、ゆっくり進行します。

きおくしょうがい

記憶障害

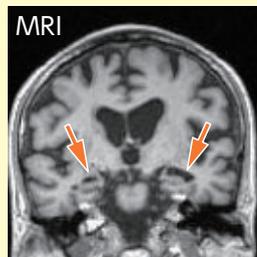


けんとうしきしょうがい

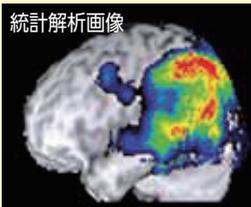
見当識障害



画像でみる アルツハイマー型認知症



かいば
海馬(→)が縮んでいます。



色のついている部分で、血液の流が低下しています。

原因

原因はまだはっきりわかっていませんが、脳の神経細胞と神経細胞の間に老人斑(アミロイド β)がたまって、脳が縮んで起きると考えられています。

おもな 症状

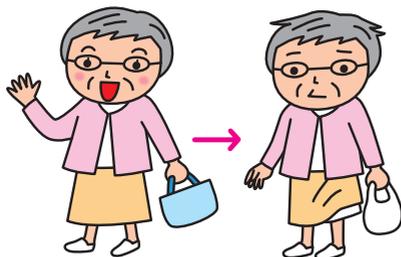
新しいことが覚えられなくなり、時には出来事自体を忘れてしまいます(記憶障害)。場所や時間の判断がつかなくなることもあります(見当識障害)。これらの症状が原因となり、徘徊したり、怒りっぽくなったり、物をとられる妄想が出ることなどがありますが、個人差があります(周辺症状)。症状は、もの忘れから始まって、ゆっくりと進行していきます。

血管性認知症

のうこうそく のうしゅっけつ
脳梗塞や脳出血などが原因。起きた場所により、症状が異なります。

認知症の症状

- 記憶障害はひどいのに判断力などは保たれている
- 穏やかだった人が怒りっぽくなる
- 気力がなくなる

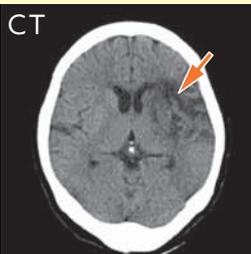


その他の症状(言語障害)



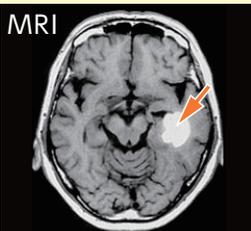
画像でみる脳血管障害

脳梗塞



黒い部分が、脳梗塞の所です。

脳出血



白い部分が、脳出血の所です。

原因 脳の血管が詰まる^{のうこうそく}脳梗塞や、血管が破れる^{のうしゅっけつ}脳出血などの脳血管障害が起きると、その周辺の脳の働きが低下します。障害が起きた場所が記憶に関係する部分だと、認知症の症状が出ます。

おもな症状 脳血管障害を起こした場所や回数・障害の程度によって、症状が異なります。認知症の症状以外に、尿失禁、言語障害、手足のまひなどが起きることもあります。軽い^{のうこうそく}脳梗塞をくり返すことが多く、その場合、階段状に症状が進行します。アルツハイマー型認知症を伴う場合もあります。

レビー小体型認知症

しょうたいがたにんちしょう

初期はもの忘れが目立たない場合があり、のちに多様な症状が出ることも。

認知症の症状(幻視)

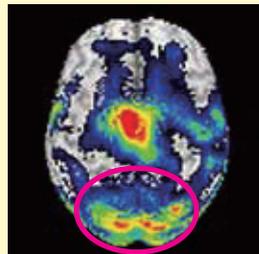


パーキンソン病と似た症状

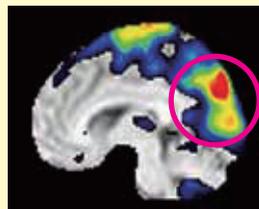


統計解析画像でみる レビー小体型認知症

▼ 真上からみた脳表図 ▼



▼ 内側からみた右脳 ▼



こうとうよう
後頭葉(○印)の血液の流れが
低下しています。

原因 脳や全身の神経細胞にレビー小体^{しょうたい}という病的な構造がたまります。特に脳の神経細胞が障害を受けた場合に認知症の症状が起きると考えられています。

おもな症状 日によって認知症の症状に変化があったり、はっきりした幻視^{げんし}や、睡眠中に夢の内容に応じて大声で叫んだり暴れたりすることがあります(レム期睡眠行動異常^{きすいみんこうどういじょう})。体の動きが遅くなる、歩幅が小さくなるなどのパーキンソン病と似た症状が出る場合もあります。このほか、抑うつ症状や、便秘・立ちくらみなどの自律神経症状^{じりつしんけいしょうじょう}をとともなう場合もありますが、すべての症状が一度に現れるわけではありません。

ぜんとうそくとうがたにんちしょう 前頭側頭型認知症

前頭葉や側頭葉が縮みます。はじめはもの忘れがみられないのが特徴。

認知症の症状 (社会的ルールを無視した行動)



行動上の変化(好みの変化)

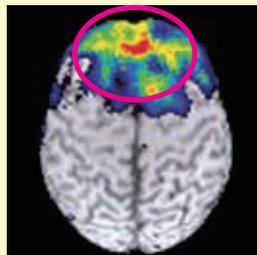
みかんは嫌だよ。
リンゴがいいね。

みかん
買ってきた
わよ～

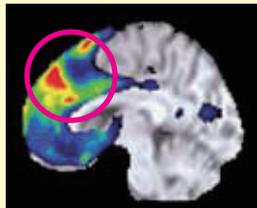


統計解析画像でみる
前頭側頭型認知症

▼ 真上からみた脳表面図 ▼



▼ 内側からみた右脳 ▼



ぜんとうよう
前頭葉(○印)の血液の流れが
低下しています。

原因 脳のぜんとうよう前頭葉やそくとうよう側頭葉が縮むことで起きると考えられています。

おもな
症状

初期には、アルツハイマー型認知症のようなきおくしょうがい記憶障害がみられず、社会的なルールを無視するような行動、極端な意欲減退などがみられることがあります。食べ物の好みが変わったり、同じ言葉や行動を繰り返したりする場合もあります(行動障害型ぜんとうそくとうがたにんちしょう前頭側頭型認知症)。

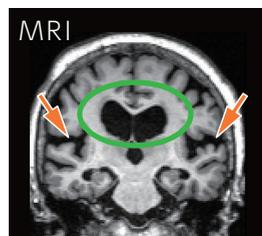
このほかにも、物の名前の読み方や物の使い方などがわからなくなったり(いみせいじんちしょう意味性認知症)、言葉の発音がうまくできなくなるタイプもあります(しんこうせいひりゅうちようせいしつごしょう進行性非流暢性失語症)。

認知症の症状を起こすことのある病気

せいじょうあつすいとうしゅう

●正常圧水頭症

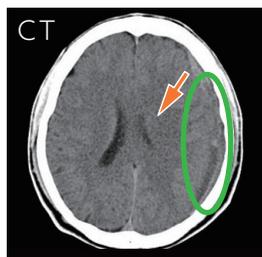
ずいえき のうしつ
髄液の流れが悪くなり脳室という場所が拡大し、脳を圧迫して症状が出ます。手術で治療が可能な場合があります。



MRI
脳室の拡大(○印)、シルビウス裂の開大(→)が特徴的です。

●慢性硬膜下血腫

まんせいこうまくかけっしゅ
頭部にケガをした後しばらくして、硬膜と脳の間(こうまく)に血の固まりができ、脳を圧迫して症状が出ます。早期治療で治る可能性が高い疾患です。



CT
血の固まり(○印)が接する部分の脳の溝の消失(→)が特徴的です。

●脳腫瘍

のうしゅよう
腫瘍ができた位置によって、手足のしびれや言語障害などの神経症状や認知症が起こります。

●脳炎、髄膜炎

のうえん ずいまくえん
細菌やウイルスが、脳や髄膜(ずいまく)に感染して起こる病気。頭痛や発熱などを伴います。

●パーキンソン病

手足のふるえ、緩慢な動作などがみられる病気です。認知症は初期には出ませんが、後期に現れることがあります。

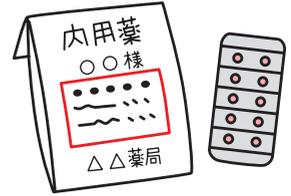
●甲状腺機能低下症

こうじょうせんきのうていかしゅう
甲状腺ホルモンの分泌が低下して、無気力で疲れやすくなり症状が出ます。甲状腺ホルモン剤で治療が可能です。

その他に低酸素血症、ビタミン欠乏症、栄養障害、肝性脳症などがあります。

認知症のような症状を引き起こす場合がある薬

- 精神安定剤
- パーキンソン病治療薬
- 抗てんかん薬
- 抗生物質
- アルコール
- 睡眠薬
- 抗ヒスタミン薬
- ぜんそく治療薬
- 鎮痛薬
- など



参考: 認知症で異常があらわれやすい部分

(頭頂葉の内側)

こうぶたいじょうかい 後部帯状回

せつぜんぶ 楔前部

ぜんとうよう 前頭葉

こうとうよう 後頭葉

かいば 海馬

海馬 主に記憶を作るところ

後部帯状回 ... 空間認知(どこにいるか)や記憶などに関係

頭頂葉 言語による表現、行動、空間認知などに関係

楔前部 記憶などに関係

前頭葉 行動を起こすこと(運動・意志など)に関係

後頭葉 視覚に関係

画像を見る時の参考にしてください。

紹介された画像について

- CT(シーティー) エックス線を使い、脳の形をみる画像
- MRI(エムアールアイ) 磁気を使い、脳の形をみる画像
- 統計解析画像 放射線を使うSPECT(スペクト)の画像をわかりやすくしたもので、脳の血液の流れをみる画像

画像提供/ 松田 博史(国立精神・神経医療研究センター)、中野 正剛(医療法人 相生会)

認知症診断の画像検査については、
ホームページ『撮って診る!!認知症』をご覧ください。

「大切な人に、いつまでも元気でいてほしい!」という願いをこめて…



http://^{はんき}genki^{ねっと}55.net
ゴーゴー!

認知症 スペクト

検索



医療機関名